

特集

【夏のおもひで】

a Memory of Summer

スイスでの夏

ちゃみこ

スイスといたらどんなことを思い浮かべるでしょうか。アルプスの山々、チーズやチョコレートが有名ですね。私が首都チューリッヒに一年間留学して抱いた印象は「堅実・素朴・静か」といったところです。食べ物は家庭的で、派手なファッションも見かけません。保守的な国民性で、時間を守るところ、強い自己主張をしないところなど、日本との共通点も多いように思います。街は、安全・綺麗で整然としています。日曜日はほとんどのお店が閉まり、とても静かで、掃除機をかけるなど大きな音を立ててはいけません。

そんなスイスですが、そのイメージとはかけ離れたイベントが年一度8月に行われます。Street Paradeというチューリッヒ最大規模のこのお祭りは、Techno Paradeとも呼ばれ、ヨーロッパ最大のテクノ音楽のお祭りでもあります。この年の参加者は95万人でした（チューリッヒの人口は約39万人）。

この日は、チューリッヒ中心部の湖畔各所にステージが設置され、世界中から人気DJが集結します。また、パレードと言う名の通り、何十台ものトラック（ラブモビル）が大音量のテクノ音楽を鳴らしながら、ゆっくりと移動して行きます。ラブモビルには、派手な身なりの人々が満員電車さながら乗り込み、踊っています。要するに移動ステージです。お祭りは13時に始まり深夜まで続くそうです。

友達に誘われるまま、15時頃向かったところ、既にすごい人混みで、若者を中心にとにかく全身カラフルな装い。半裸に近いような恰好や奇抜なコスチュームに圧倒されました。普段は静かなスイスでこんな光景を目にするとは…。このパレードは、ゲイの人が集まることでも有名なようです。

残念ながら、大学の試験期間中だったため、1時間ほどでその場を後にしましたが、夜に向かうにつれ会場は一層の盛り上がりを見せたのでしよう。わずかな時間でしたが、スイスのスイスらしからぬ姿を見ることができた、貴重な夏の思い出です。

夏は、やっぱり野球

ふあん

真夏の甲子園球場に初めて立ったのは（アルプススタンドですが…）、ウン十年前の8月13日でした。時間にすれば2時間半程度の応援だったはずですが、私の高2の思い出は、あの日に尽きます。決勝戦まで現地に滞在するつもりで、2週間分の着替えを詰めて乗り込んだ大阪、一泊二日で帰ってきました。

プロ野球の応援も心躍りますが、高校野球の応援は本当に胸が詰まります。

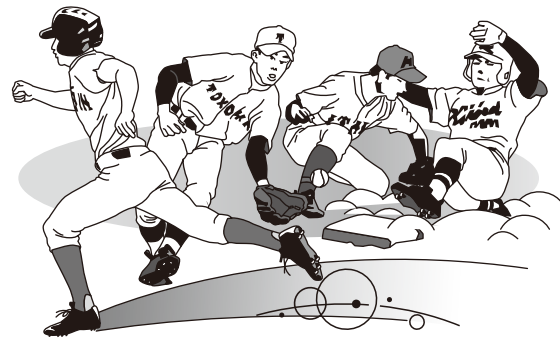
阪神甲子園球場前の駅の階段には、「高校球児の98%がここで敗者になる。」と、そして、もう一步、足を進めると「そしてもっと強くなる。」というメッセージに出会います。

野球に限らず、一心不乱に、何かに夢中になり、夢破れても、夢中になったその時間が心を強くしてくれると、このメッセージに出会うたびに思います。いい言葉です。

プロにしても、高校野球にしても…応援するチームがあると、手に汗握り、つつい雄叫びを上げてしまいます。

創英にも「創英野球部」があります。いよいよ、今年のシーズンも開幕です。

パテント杯では、3位、4位と準決勝まで進んだ「夏の思い出」がありますが、そろそろ…パテント杯「決勝進出」と丸の内野球大会「初勝利」という新たな「思い出づくり」をしてくれるのではないかと、「ふあん」は期待している今日この頃です。



【夏のおもひで】

a Memory of Summer

懐かしの自動車学校

藤田

高校を卒業し、大学1年の夏休み。

おそらく多くの人がこのタイミングでやることといえば、そう「車の免許を取る」。私もご多分に漏れず、自動車学校に通うことにしました。

私が通った自動車学校は非常に田舎にあり、かつ古かったため、教習車もなかなか年季が入った素敵なクルマでした。さらに、教えてくれる先生もおじいちゃんに近いようなおじさんたちで、やる気もほとんど感じられない人ばかり。

そんな教習所で、路上教習をしている時でした。そろそろ路上の運転も慣れてきて、特に問題なく走っていたので、先生の方も非常に退屈そうな感じで、最初にルートを示した後はうつらうつらしているような状態。「寝ちゃいそうだな。」と思っていたら、少し目が覚めたのか、なにやら後ろの席をゴソゴソ。そして何かを取り出したのですが、それは『ジャンプ』でした。そうです、その日は月曜日でジャンプの発売日。そして私に、「ジャンプ、読んでいい？」と質問。かなりやる気のない発言でしたが、別に指定されたルートを行けば問題ないので、「あ、いいですよ。」と答えました。

そして、とある交差点。赤信号で停車していると、後ろに2、3台クルマがいる状況から、青信号に。ギアを入れ、半クラから、発車しようとしたのですが、なぜかなかなか前に進みません。クラッチの調整が悪いのかな、と思い、徐々に半クラからさらに足を離していきましたが、それでも状況は変わらず。ついに、クラッチを離し過ぎてエンストしてしまい、後続車からクラクションが。

焦っていると、横から先生が、「あ、ごめん。ジャンプ読んでブレーキ離すの忘れてた」(教習車は助手席側にもブレーキがあります)。

今思い返せば、なかなかヒドイ話ですね。そんな教習所で免許を取得した私ですが、18歳から今まで無事故無違反を続けています。世の中、何とかありますね。

これからも安全運転を心がけたいと思います！

4年前の夏のハプニング

アラン・プロスト

私は、4年前の8月から京都オフィスに長期赴任しています。長期赴任に先立ち、生活用品を揃えるために、家族4人で旅行を兼ねて京都に行きました。

出発当日は、衣類、食器類、カーテン等が入った多くの荷物を分担して持って、京都に向かいました。京都の社宅マンションに着いたのは、午後2時過ぎでした。そこで、最初のハプニングが起きました。その時間帯、社宅マンションのエレベーターが点検中で使用不能でした。そのため、暑い中11階まで階段で上っていく羽目になりました。ちなみに、その日の京都の最高気温は、37℃だったと思います。それでも2人の娘は、部活等で運動しているため、難なく11階まで上がって行きました。しかし、妻は、さすがに途中でダウンしました。ただ、ラッキーなことに、部屋にはエアコンだけが付いていました。

少し休憩してから、ヨドバシカメラに行き、電化製品を購入しました。その後、ホームセンターへ寝布団を買いに行きました。帰りは大きな寝布団を持って地下鉄に乗ったので、回りの人には迷惑をかけたと思います。

次の日は、細々したものを購入することになっていました。しかし、午前中にハプニングが起きました。長女が、近くのコンビニに行った際に、携帯電話を無くしてしまいました。長女と二人で、社宅マンションとコンビニの間を探し回りましたが、結局見つかりませんでした。そこで、買い物は妻と次女に任せて、私と長女は警察署に行きました。まさか京都で警察署に行くことになるとは、思ってもみませんでした。

その次の日は、大阪で遊んだ後、自宅に帰りました。ただ、その日もハプニングがありました。静岡県内の集中豪雨により帰りの新幹線が1時間半ストップしたのです。

この3日間ハプニング続きだったので、長女はブーブー文句言っていました。ある意味いい思い出となりました。